

19日、北海道開発局がある。共同輸送・中継輸送を後押しすること、道内の物流の維持・改善を図る。

北海道や道開発局、道運輸局、道経済産業局、道農政事務所、北海道トラック協会（松橋謙一会長）などで構成するロジクス実行委員会が主催。先着順に30社程度の参加を想定している。ビデオ会議システムで参加してもいい、3、4社程度のグループによる意見交換の場を複数回設け

（朽木崇洋）

は決定日から2026年3月13日まで。（田中信也）

九州で未来座談会

「J」連合会

日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会（JL連合会、追懐一会長）は、全国の7地域本部ごとに未来座談会を開き、次期ビジョン策定に向けた中

と明記。また、小林、高市、林の各氏が郵便局ネットワーク活用を取り上げている。

（小栗史和）

事例聴く

戦略や事故防止

19日、懇親会を前に、渡邊理事長は「配車・営業をする上で頼りになるのが顔を知り、心を通じ合える仲間。それがJTPのメンバーで、ここでどれだけ増やせるかで今後の業務も変わってくる。仲間をたくさんつくり、



「頼りになるのが心を通じ合える仲間」と渡邊理事長（19日）

全日本トラック協会の生コンクリート輸送部会の総会が17日、横浜市で開かれ、任期満了に伴う役員改選で小島信也部会長（愛知）に代わり妹尾洋副部会長（神奈川県）が部会長に昇格した。副部会長は川上雅彦氏（北海道）と岡本尚也氏（愛知）が留任。新たに高野誠氏（東京）が選ばれた。2024年度はセメント業界の専門紙に生コン輸送の現状や課題に関する記事を掲載し、セメントメーカー

会社の利益向上につなげてほしい」と呼び掛けた。

20日には、藤本智治専務（丸和運輸）が事業の経過を報告。2024年8月、25年7月の会員間の取引実績が135億2千万円だったことなどを述べた。8月1日時点で、会員は52社、営業所441拠点、車両1万4279台、倉庫面積194万369平方メートルとなった。

FULLXALの大井謙太社長は「安全のプロを育てる『育て方改革』、改正貨物自動車事業法に負けない社内安全風土の構築」をテーマに講演。また、滋賀運送、福井高速運輸、姫路合同貨物自動車の担当者、各社の事業戦略、事故防止活動について発表した。このほか、参加した全ての会社がそれぞれの事業の概要や課題を説明した。

（根来冬太）

1に理解を呼び掛けたほか、セメント部会（鎮目隆雄部会長）との合同研修で改正物流法について学んだ。

事業計画は①物流改正法への対応と輸送力の継続的維持②標準的運賃の適正収受と適正原価への移行に伴う国の調査などへの協力③定量積載の徹底と交通法規の順守④輸送効率の向上と環境負荷の低減⑤セメント部会との連携による研修会の開催——など7項目を盛り込んでいる。（北原秀紀）

サブスクdeスグのり[®]

営業ナンバー対応



気軽な短期リース

トラックのサブスクで車両導入時の 初期費用を大幅削減!

弊社ブランドアンバサダー
横田 真一



運営会社：株式会社タカネットサービス

☎ 0120-617-417



サブスクdeスグのり

<https://sugunori.truckland.jp>

電話受付10～18時(土・日・祝休)